

## 宝塚23万人の防災キャンプ実行委員会より

東日本大震災や熊本地震が起こり、今後、南海トラフ巨大地震が発生すると想定されているなか、防災に対する意識が高まっていますが、宝塚市は阪神・淡路大震災で被災してから既に24年が経過し、災害時に具体的にどのような行動をとったらよいのか把握できていない世代の市民も多くなりました。いざという時に、地域が一体となり命と生活を守るために力を合わせていくためには、さまざまな立場・世代の方が参加でき、防災の知識・技能を高め、地域での繋がりを作る活動を普段から実施することが不可欠です。そこで、私たち宝塚23万人の防災キャンプ実行委員会は、避難場所です実際に一夜を過ごす体験活動を通じて、防災に関する意識を高め、そこで得られた成果を市内の自治会や学校等に伝え、実際に避難場所となる施設で実施できるよう、防災キャンプを宝塚市の各地域に広めたいという思いで活動しています。

災害時に何より大切なものは、「人と人との繋がり」です。「避難生活」という非日常を共に考える経験は、宝塚での暮らしを、心通う会話があふれ、お互いを思いやれる仲間に出会えた日常にする力になると信じています。すでに防災活動を精力的に行っておられる地域でも、より実効性が高く、人との繋がりを意識したプログラムを取り入れていただき、一部の人だけでなく、みんなが避難場所です主体的に行動できるよう、人材の養成を行い、地域と宝塚のまちの活性化につなげたいと考えています。

ぜひ、みなさんの地域で開催してみてください。

### ●開催実績●

|     |                                 |                                                                                              |
|-----|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 宝塚23万人の防災キャンプ2017夏              | 場 所:ぶらざこむ1<br>日 時:2017年9月9日～9月10日<br>参加人数:54人、スタッフ:50人(実行委員会50人)<br>予算規模:23万円                |
| 第2回 | 宝塚23万人の防災キャンプ<br>withコミュニティ末広   | 場 所:中央公民館、末広小学校体育館<br>日 時:2018年10月20日～10月21日<br>参加人数:25人、スタッフ:45人(実行委員会40人、地域5人)<br>予算規模17万円 |
| 第3回 | 宝塚23万人の防災キャンプ<br>with一小まちづくり協議会 | 場 所:宝塚第一小学校体育館<br>日 時:2019年9月14日～9月15日<br>参加人数:53人、スタッフ:82人(実行委員会55人、地域27人)<br>予算規模22万円      |

※ぶらざこむ1、中央公民館は、実際の指定避難場所ではありませんが、防災キャンプに賛同いただき、会場を利用させていただきました。

### 実行委員会からのメッセージ

初めての防災キャンプ実施にドキドキしましたが、参加者の親子とわいけ子ども達の活躍を見て防災キャンプの意義を教えられました。

第1回実行委員長:榎本 匡笑

災害は人の非日常生活(避難所生活)が日常生活になってしまう。防災キャンプはその非日常生活を日常で体験できる貴重な場です。だからこそ人と地域が交流できる時間が生まれます。良い時間ですよ。防災キャンプ!

第2回実行委員長:寺本 達也

一緒にご飯を作って食べ、同じ空間で眠り、不便不自由を知恵と協力で乗り越える。助けてもらっていいし、知らない人でも当然助ける。この経験が、災害時だけでなく、普段の地域の絆を強くします。ぜひ挑戦してください。

第3回実行委員長:岩田 郁子

### 開催地まちづくり協議会の感想

私たちコミュニティ末広は、防災キャンプの運営に協力させていただき、防災キャンプ参加者の方々に、キャンプ2日目にコミュニティ末広の防災訓練に参加していただきました。その結果、意図した通り大成功を納め、特に参加された子ども達の生き生きとした姿をみて、これまでにない活発な防災訓練になったことを感謝しています。

第2回共催  
コミュニティ末広会長 豊田 茂男

宝塚第一小学校の体育館で2日間の防災キャンプを開催することが出来ました。今回は若いファミリー層の参加で家族防災と地域の繋がりに役立つと振り返っています。特に指定避難所で初めての、宿泊による避難所運営訓練を兼ねた防災キャンプは大変有意義でした。

第3回共催  
宝塚第一小学校区まちづくり協議会会長 中谷 修



防災キャンプ開催についてのお問い合わせ先

宝塚市都市安全部危機管理室 総合防災課 TEL:0797-77-2078 〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号 本庁2階

作成:宝塚23万人の防災キャンプ実行委員会

(株式会社エフエム宝塚、こむ1会、生活協同組合コープこうべ、宝塚市社会福祉協議会、宝塚商工会議所青年部、宝塚青年会議所、宝塚市立中央公民館)

協力:宝塚市総合防災課、コミュニティ末広、宝塚第一小学校区まちづくり協議会



2019.11

# やってみよう! 防災キャンプ

宿泊体験キャンプで  
防災のことを  
知ろう、考えよう。



防災キャンプは、実際の避難所や避難所を想定した場所で、一泊二日の避難所宿泊を体験するキャンプです。

参加者もスタッフも避難者として一緒にご飯を作り、寝泊まりしながら、普段の生活とは違った「不便不自由」を乗り越え、初めて会った人とも助け合って過ごします。

地域の課題や必要な備えが見えたり、ひとりひとりの防災意識が高まったり。自分の命、自分の家族、自分の地域は自分で守るという心が生まれます。

## リアルな避難所宿泊体験

実際に泊まってみるのは貴重な体験。

## 楽しく防災学習

ゲームをしたり、体を実際に動かしながら、楽しく学ぶ体験型防災学習。

## 地域の絆づくり

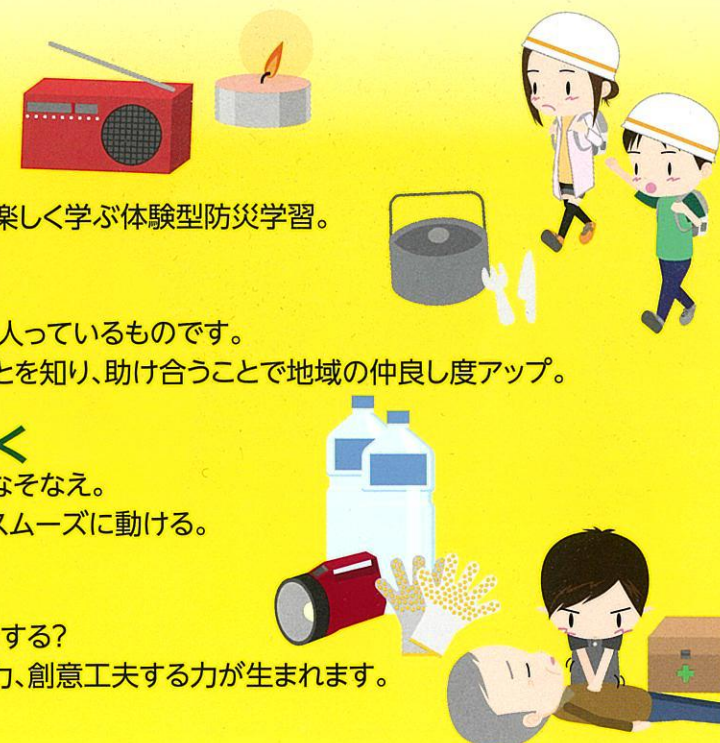
近所に住んではいるけれど、普段会わない人っているものです。いろんな状況、いろんな思いの人がいることを知り、助け合うことで地域の仲良し度アップ。

## 普段からの備え方が身につく

避難してみてもはじめてわかる、自分に必要なそなえ。知識だけでなく体験すると、いざという時スムーズに動ける。

## 不便・不自由から学ぶ

電気がない、水が足りない、そんなときどうする? 不便不自由を体験することで、乗り越える力、創意工夫する力が生まれます。



## 防災キャンプのモデルプラン

### 避難場所に集まる

持ち物は自由。  
必要なものは自分で考えて持参します。

### オリエンテーション

自己紹介や防災グッズ自慢などで  
どんな人がいるのか交流。

### 炊き出し体験

ご飯を一緒に作ります。  
食器も作ったり、少ない水で  
上手に調理する方法を体験。

### 学びの時間

ゲームや身近な材料で防災グッズ作り、  
星を見たり、ダンスや昔遊びをしたりなど、  
楽しむ時間もあるといいですね。

### 寝る準備

段ボールベッド、簡易更衣室など、  
実際の避難所で使われるものを  
組み立てたり使ったり。

### 就寝体験

避難所と同じ環境で一泊してみます。  
不便不自由な中から、学ぶこといろいろ。

### 起床・体をほぐす時間

みんなで一緒に、笑顔で体操。  
防ごう!災害関連死。  
生活のリズムを整えます。

### 朝ごはん分配体験

支援物資を分け合う体験。

### 体を動かして人命救助

サバイバル運動会、バケツリレー、  
ロープワーク、AED体験など

### 非常食クッキング

家庭での備蓄も学べる、  
非常食で美味しいご飯を作る体験。

### ふりかえり

それぞれの感想や、今後取り組むべきこと、  
改善点などの意見交換

避難経路を通って帰ってみよう。  
おうちに帰るまでが防災キャンプ。



## 自分たちの防災キャンプを 作ってみよう。

左に掲載したのは、2017年から2019年にかけて、宝塚市内で実施した防災キャンプの内容をもとにしたモデルプランです。開催場所により、メンバーにより、毎年少しずつ内容が異なります。皆さんのまちで計画するときは、モデルプランを参考に、地域の課題、人数規模、会場などの条件によって、内容をアレンジしてみてくださいね。

### 情報掲示板

今回のテーマ  
不便・不自由・不親切の状況で  
お互い協力しよう  
注意：熱中症対応 → 水分補給!!



## 防災キャンプQ&A

Q.毎年している防災訓練とは何が違いますか?

A.実際に一泊してみる、これが重要ポイントです。「知識を得る」「見学する」とは違う「体験型」の訓練で、いざという時に慌てず動ける人が地域にたくさん増えると、心強いのでは。

Q.設備の整っていない学校に泊まって、苦情とか問題はないですか?

A.第1回から3回の防災キャンプでは、事前に説明会を開き、参加申し込み者に宿泊の環境条件などを説明し、了解の上で参加いただきましたので、参加者からのクレームなどはありませんでした。季節により、室温管理が必要な事情の方には空調が使える部屋を用意しました(実際の避難所運営でも必要なことです)。

Q.人手がないんですが…。

A.地域活動では一番切実な問題かもしれませんね。また、まず少人数から始めて、次年度はその参加者がスタッフになるなど、徐々に規模を広げてもいいですね。防災キャンプ実行委員会にご相談いただければ、ボランティアスタッフ募集のお手伝いをします。

Q.お金がないんですが…。

A.過去開催の防災キャンプでは、参加者からもスタッフからも参加費を集めました(食材費という意味合いで)。また、足りない分は、助成金を活用したり、地域の企業などに協賛していただいたりしました。市役所や社会福祉協議会で借りられる備品もありますし、食事の回数を減らしたり、食材は参加者持ち寄りにするなど、工夫次第でコストを下げることもできます。

## 助成金を活用して負担を軽減

地域の安全・安心のための活動を支援する制度があります。開催の費用の確保に活用しましょう。

◇ ひょうご安全の日推進事業 助成事業  
問合せ先:兵庫県阪神北県民局 総務防災課  
TEL:0797-83-3127

◇ 宝塚市きずなづくり推進事業補助金  
問合せ先:市民交流部 きずなづくり室 市民協働推進課  
TEL:0797-77-2051

◇ co-op共済 地域ささえあい助成  
問合せ先:日本コープ共済生活協同組合連合会 地域ささえあい助成事務局  
TEL:03-6836-1320

<参考>防災キャンプ支出内訳

